



NPO法人ビッグイシュー基金 2007年度年次報告書

2007年度年次報告書 2008年12月11日発行
発行 特定非営利活動法人ビッグイシュー基金
〒530-0003 大阪府大阪市北区堂島2丁目3-2堂北ビル4F
TEL 06-6345-1517 FAX 06-6457-1358
Email info@bigissue.or.jp URL <http://www.bigissue.or.jp>

はじめに ―― ビッグイシューコミュニティへ

ビッグイシュー基金の1年目の活動を終えることができました。

ご一読頂ければおわかりのように、活動は日々の巡回から、たとえば華やかなダンス公演まで多岐、多様にわたっています。活動のあり様もさまざまです。ホームレスの人々への暮らし相談、それにとまなう他の団体や諸機関との連絡、連携、継続的協力などの社会に開かれていくような応援体制づくり。自立を目指す人々自身による住宅確保や金銭管理などのしくみづくり、ボランティアからの技術的、精神的、人間関係的な個別支援をうけられる機会づくりなど。社会への発信や働きかけを行う、自主的なグループ&クラブ活動、学校などでの講演、音楽などの公演、集会の開催、など簡単には整理しきれないほどです。いずれも、まだ始まったばかりで、多くの問題や課題を持っています。

しかし、ホームレスの人々を応援するということをきっかけにして、パーティ、展覧会、ライブ・表現発表会、ホームレス会議などへと、活動は幅広い市民の社会参加や、市民と市民のつながりを形成する方向に動きつつあります。社会の中であって社会をつくる、ビッグイシューコミュニティへの手ごたえを感じることができました。

1年目にして、このような活動ができたのは、有限会社ビッグイシュー日本の5年にわたる事業活動と、この会社を寄付やボランティアなどで支えていただいた多くの個人のみなさまが基金の活動に引き続き参画いただいたということがあります。これが749人におよぶ賛助会員、116人の一般寄付となって、多様な活動の基礎の基礎を支えていただきました。何度お礼を言い感謝しても足りません。本当にありがとうございました。

さらに、基金の活動は、277人の登録ボランティアや多くの市民、団体、企業のみなさまに支えられて可能になりました。たとえば、ほんの一部ですが、団体・企業では大阪府保険医協会、UBS証券、サイバーマップ・ジャパン、NEC、ヘッドジャパン、日本ヒューレット・パカード、ボイスバンク、しなやかネット、釜ヶ崎支援機構、新宿連絡会、もやい、フードバンク関西、セカンドハーベスト、企画室円などに大いなるご協力をいただきました。ユニークだと社会から注目を浴びた文化活動では、ダンサーのアオキ裕キさん、ミュージシャンのオニさんには、まさに創造的なお力をいただきました。

ご協力いただいたみなさまに、心より感謝しお礼を申し上げます。ありがとうございました。

特定非営利活動法人ビッグイシュー基金
理事長 佐野章二



I 生活自立応援プログラム

仕事と家の喪失に加え、身近な絆を失い“一人ぼっち”になることで、人は希望を失いホープレスになりホームレスになります。金銭管理やアルコール・ギャンブル依存症の治療のほか、健康や住宅、社会福祉の相談などを行い、普通の暮らしや働くというリズムを回復し、人や社会との“つながり”を取り戻すことを応援します。また、最近急増している40歳未満の若者ホームレス問題を調査し、応援プログラムを作成します。



1 巡回

月に2回から4回、大阪市内や東京都内で夜回りを行い、路上で生活する人たちに声をかけたり、健康相談や仕事の情報を記載したチラシや、パン、ホッカイロなどの配布をしました(チラシ配布数3500枚)。

2-1 健康相談

大阪は大阪府保険医協会の協力を得て、毎月1回健康相談を実施。52名の方が相談を受けました(内科31名・歯科21名)。区役所や医療機関と連携して、治療が必要になった場合は医療券を取得し医療機関につなぐという、一連のネットワークを構築することができました。東京は、定期的な健康相談の実施に向けて、関係団体と連携をとりはじめています。また、UBS証券より医療品の提供を受け、特に冬季の風邪予防には大きな効果を上げることができました。さらに、大阪はフードバンク関西より、東京はセカンドハーベストより食品の提供を受け、定期的に、巡回時や体調の悪い方に提供しました。



健康相談

2-2 依存症

大阪・東京ともに、初年度は薬物・アルコール依存症の勉強会に参加したり、関連団体と連携をとるなどして、依存症相談を受け入れるための準備作業を行いました。

2-3 住宅

不動産会社と連携して、保証人が要らず、初期費用や家賃の負担が少ない物件を探して、大阪では8名、東京では1名の方に紹介しました。また、支援者の方から低家賃でアパートを貸していただき、入居の際の契約やお金のやりくりなどについて相談を受け、支援しました。

2-4 社会福祉相談

大阪では4名の方から、東京では6名の方から社会福祉に関する相談を受け、他の支援団体の協力も得て、生活保護を受給できるようサポートをしました。

2-5 法律

大阪では2名の方から、東京でも2名の方から法律相談を受けました。いずれも多重債務の問題や住民票の問題など、住居の確保や就職の際問題になったもので、弁護士の協力も得て、相談し、解決への支援をしました。

3 若者支援

近年増えつつある、40歳未満の若者ホームレスの自立支援プログラムを作成するために、ヒアリング調査をはじめています。若いビッグイシュー販売者へのヒアリングに加えて、釜ヶ崎支援機構等が作成した「若年不安定就労・不安定住居者聞き取り調査」報告書などを参考に、支援プログラムの仮説をたてる作業を行いました。

4 金銭管理

基金の窓口で希望する人からお金を預かり、個別の通帳をつくり金銭管理をサポートしました。希望者には目標を設定して、それを実現できるだけの金が貯まるまでは引き出さない「いろいろ夢貯金」など、計画的にお金を貯めるための工夫をしました。アパートに入るための初期費用など、大阪では15名が、東京は19名が貯金のしくみを利用しています。



ボランティアさんから食事の差入れ



毎月1度行う定例サロン



定例サロンで行ったバーベキュー



無料で行うヘアカット

5 つながり

大阪・東京ともに、月に一度、ホームレスの人々や市民が気軽に集える場である「定例サロン」を開き、多くの市民と意見交換したり楽しく交流したりしました。

また、東京や大阪で寄付していただいた衣類の無料配布を行ったり、月に1回程度ボランティアの美容師さんの協力を得て、無料のヘアカットも行いました。

さらに、よりオープンな市民との交流の場として、大阪では07年12月26日大阪中央公会堂にて、東京では08年1月26日青山にあるモーダポリティカにて、基金発足記念パーティを開催しました。大阪では、路上生活者を撮ったカメラマン高松英昭さんの写真展を、08年4月21日から1ヶ月にわたって大阪玉造にあるカフェMAGATAMAで開催しました。07年7月には、NECの協力を得て「東京ホームレス会議」を開き、100名を超える市民の参加を得ました。

II 就業応援プログラム

人がホームレスになる背景には、建設や土木などの現場で働く中高年男性労働者の失業、非正規雇用の若者の増加などの様々な要因があります。就業の相談、就業訓練や体験の場の提供、仕事の紹介、就職後の継続的なサポートを行い、それぞれの生き方に合わせた個別の就業サポートを行います。



1 就業相談

キャリア相談のベースともなるライフコーチング講座を行いました。プロのライフコーチの松本健一さんと内田優子さんの協力を得て、東京では4名の方が1対1のコーチングを受け、今の生活や就業についてゆっくりと考え、向き合う時間を持ちました。ライフコーチングは、今の自分と向き合い、それを未来の目標に繋げるためにはどうしたらいいのかを、あくまで自分自身で自発的に考え見つけていくようにするもので、パーソナルコーチングとも呼ばれています。

2 トレーニング

パソコン講座、接客力検定、販売レクチャー、POP講座など、就業に役立つ様々な講習会を行い、今後、もう一步踏み込んだ就業応援プログラムを行うための、入り口を作ることができました。

パソコン講座は、東京で2007年11月～2008年1月まで、NECとしなやかネットの協力を得て全4回のパソコン講座を行い、7名が参加。大阪でも、6月から月に1度パソコン講習を開始し、電源のつけ方から始まって、基本的な操作を中心にレクチャーし、初めは3名だった参加者も7名に増えました。

また東京では、企業の社員トレーニングなどを行う「企画室門」のまどかれい子さんの協力を得て、接客やビジネスマナー講習を行いました。さらに、ジュンク堂池袋店の方の指導で、POP作成講座も行いました。



POP講座

3 就職後フォローアップ

就業し自立を果たしたとしても、それを継続させることは簡単なことではありません。そこで、すでに就業した人々とながらを持ち、つらいときに相談にのったり励ましあったりできるように、定期的に電話をしたりイベントに誘うなどしました。定例のパーティには10名の方が参加しました。



まどかさんの販売レクチャー



パソコン講習

III スポーツ・文化活動応援プログラム

自立に向けてがんばれるのも、いま生きることへの意欲や喜びがあってこそ。そこで、ホームレスの方たちが主体となった同好会活動や、ダンス・サッカー・音楽などのクラブ活動を応援しています。同時に、多くの市民の方とホームレスの方との交流の場を広げていきます。



1 音楽活動

大阪のビッグイシュー販売者が中心となってつくるバンドグループ「O.H.B.B.」(大阪ホームレスビッグバンド)をつくり、毎月2回練習を続けています。曲はすべてオリジナルで、「おはようのうた」「抱夢(ホーム)」「たこやきうた」「ホームレス生歌」など9曲になっています。路上生活を送る中で感じた想いや出来事を、率直に表現したものです。

2 ダンス活動

プロのコンテンポラリーダンサーのアオキ裕キさんの指導のもと、東京では2007年5月から月に2回ダンスの練習を行いました。その延長で、市民の有志がボランティアで集い結成した実行委員会の協力を得て、2008年3月にはダンス公演「ソケリッサ!」を行い、2,500円の入場料で、計400名を集客しました。その後ソケリッサに参加したメンバーは、津田塾大学講堂にて400名の学生を前に講演とミニパフォーマンスも行いました。



関西大学で行ったO.H.B.B.のライブ

3 スポーツ

大阪・東京それぞれで、月に2回フットサルの練習を行いました。2008年12月にメルボルンで行われるホームレスサッカーワールドカップに出場することを目指していましたが、資金的な問題などで出場を断念。かわりに、来年のミラノ大会に出場することを目指して、市民が中心となって「野武士ジャパンサポーターズ」を結成しました。大学生を中心に常時10数名のボランティアが積極的に参加し、練習のみならずWEB制作や広報面など活動全体を支えています。また東京では、卓球クラブをつくり、毎月2回活動を行っています。



アオキさんとダンスの練習

4 その他

毎月1回「歩こう会」を開き、ボランティアの人たちも参加して、大阪の町歩きを楽しんでいます。また、大阪では2008年3月から、東京では7月から、毎月1回映画鑑賞会を開き、『荒野の決闘』や『ローマの休日』などの名作をみんなで鑑賞しました。そして、大阪では気功の先生を招いて2008年4月19日より気功教室を実施、東京ではレイキ講座を実施しました。「レイキ」は、体の各所に手をかざすことで、その部分の体温を上げ、心身ともにリラックスした状態になり、溜まった疲れなどがとれるという効果があります。



フットサルの練習

市民参加

社会を救うのは市民自身です—

“貧困”の最も顕著な現れともいえるホームレス問題は、当事者や支援団体、行政だけでなく、社会全体で取り組むことではじめて、解決に向けて動き出すのではないのでしょうか。排除するのではなく包摂する社会を、ともにつくっていきたいと考えています。

こうした試みの一つとして、07年7月に、NECの協力を得てNEC本社ビル内の会議室で「東京ホームレス会議」を開きました。普段の定例サロンを、広く市民や社会に公開し、ホームレスの暮らしや自立への思いを、100名を超える参加者と一緒に語り合いました。

ビッグイシュー基金は、「市民が市民をサポート」することをモットーに、市民応援会員やボランティアスタッフなどを中心に、日頃から多くの市民のみなさまの協力を得て、活動しています。

そして、当事者とともに社会問題に向き合いたいと願う人たちに、参加の機会を用意することも、私たちの重要なミッションだと思っています。

ファンドレイジング

NPO全体の底上げを考えるために、大阪NPOセンターとヘッドジャパン、しみん基金・KOBEの協力を得て、「NPOのファンドレイジング(資金調達)を考えるつどい」というイベントを2回主催しました。

2回目のつどいでは、日本初のファンドレイジング専門のコンサルティング会社「ファンドレックス」を創業された鶴尾雅隆氏をお招きし、関西のNPO、市民活動団体、市民も巻き込んで、ファンドレイジングの重要性を見つめ直し、ネットワークをつくりました。

情報発信

雑誌『ビッグイシュー日本版』で「基金通信」を、賛助会員を中心に「基金便り」を、いずれも月2回の計24号発行し、基金の活動紹介や会員の呼びかけ、イベントの告知などを行いました。

また、ホームページやスタッフブログも使って、外に向けた情報発信を積極的に行いました。

さらに、中学校や高校、大学などを中心に、当事者とともに出向き、講演を行いました。

物資の寄付

UBS証券より医薬品／日本ビューレット・パカードよりパソコン10台／フードバンク関西・セカンドハーベストより食料品／その他個人の方々から、衣類やテレホンカードなどを中心に、多くの物資をご寄付いただきました。

ボランティアスタッフ

夜回りへの同行や、事務所内での作業、パソコン講習の補助など、ともに活動に参加して支えてくださっている皆さまです。

ボランティア登録者総数(2008年8月現在) 277人

(大阪83人／東京194人)

ビッグイシュー基金市民応援会員

ビッグイシュー基金の賛助会員として、日頃から活動を支えてくださっている皆さまです。

賛助会員数(2008年8月現在) 749人

あか抜け応援会員	37人
ぐっすり応援会員	182人
にっこり応援会員	377人
ひとり立ち応援会員	117人
巣立ち応援会員	35人
キャリア再形成サポーター会員	1人

※会員以外の寄付者数 116人

2007年度決算報告

《収支計算書 (2007年9月1日～2008年8月31日)》

科目	金額(単位:円)	
I 経常収入の部		
1. 会費収入		
年会費	15,957,500	15,957,500
2. 助成金・補助金収入		
助成金・補助金	200,000	200,000
3. その他収入		
寄付金	1,696,180	
受取利息	800	
雑収入	872,140	2,569,120
経常収入 計		18,726,620
II 経常支出の部		
1. 事業費		
生活自立応援費	3,892,636	
就業応援費	953,525	
スポーツ・文化応援費	1,078,901	
広報活動費	4,491,854	
その他(調査・市民啓発他)	3,586,835	14,003,551
2. 管理費		
事務費(人件費)	1,157,185	
家賃(光熱費含)	2,214,551	
通信費	410,104	
荷造り運賃費	842,249	
旅費交通費	641,855	
事務消耗品費	407,044	
総会理事運営費	77,305	
雑費	642,270	6,392,563
経常支出 計		20,396,114
経常収支差額		△ 1,669,494
当期収支差額		△ 1,669,494
次期繰越収支差額		△ 1,669,494

《貸借対照表 (2008年8月31日現在)》

科目	金額(単位:円)		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	209,291		
普通預金	807,056	1,016,347	
2. 固定資産			
		0	
資産合計			1,016,347
II 負債の部			
1. 流動負債			
仮受金	2,685,841	2,685,841	
負債合計			2,685,841
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産			0
当期正味財産			
増加額(減少額)	△ 1,669,494	△ 1,669,494	
正味財産合計			-1,669,494
負債及び正味財産合計			1,016,347

《監査報告書》

2 監査の結果

特定非営利活動法人ビッグイシュー基金の業務報告及び決算報告について、2007(平成19)年9月1日から2008(平成20)年8月31日までの監査を行った結果、客観的資料にもとづき明瞭かつ正確であって、適法であることを認めます。

なお、業務または財産に関して、指摘すべき、不正の行為または法令、定款違反の重大事実は認められません。

2008(平成20)年11月11日

特定非営利活動法人ビッグイシュー基金監事

木原万樹



ビッグイシュー基金とは

ビッグイシュー基金とは—

ビッグイシュー基金は、有限会社ビッグイシュー日本(※)を母体に2007年9月に設立した、ホームレスの人たちの自立を応援する非営利団体です。ホームレスの人々に対して、生活自立、就業、文化・スポーツ活動などの支援を多面的に行う“敗者復活”応援事業を実施し、貧困問題という氷山の頂点にあるホームレス問題の解決に取り組んでいます。

ビッグイシュー基金が目指すもの—

2007年の厚生労働省の調査によると、現在18,564名にも上る人たちが屋根のない路上での生活を強いられています。そして、ホームレスやワーキングプア、これらの人々を放置することで困るのは、まずは当事者の人々ですが、実は、本当に困るのは“社会自身”なのではないでしょうか？ 社会自体の、問題に立ち向かい、解決する力が弱くなり、社会のつながりや連帯が失われることにつながるからです。

ビッグイシュー基金は、生活自立、就業、文化・スポーツの3つの活動を通して、路上生活を経験しても、自立を望めばだれもがその機会を持ち、生きる喜びや誇り、希望を持って生きられる社会をつくりたい。そして、社会全体がいきいきとした力をとり戻すことに、貢献したいと願っています。

ホームレス問題は、今、あなたのすぐ隣で起きている出来事です。ホームレスという人種はどこにもいません。ホームレス状態におかれている人がいるだけなのです。“無関心”であることから一歩踏み出して、まずは路上で暮らす「人生をあきらめない」人たちの声に、耳を傾けてみてください。

※有限会社ビッグイシュー日本って？

有限会社ビッグイシュー日本は、「ホームレスの人々の救済ではなく仕事を提供すること」を目的に活動しています。具体的には、ホームレスの人々の自助・自立を促すために、路上で雑誌を販売してもらい、その売上の50%以上を彼らの収入にするという仕組みをつくっています。2003年9月から2008年8月までの5年間で780名が販売者に登録し、77名が卒業しました。また、274万冊を販売、3億2,200万円の収入をホームレスの人たちに提供してきました。



団体概要

- ☐ 正式名称 特定非営利活動法人ビッグイシュー基金
- ☐ 設 立 2007年9月設立
※2008年4月内閣府よりNPO法人の認証を受ける
- ☐ 所 在 地 [事務局本部]
〒530-0003 大阪市北区堂島2丁目3-2 堂北ビル4階
Tel 06-6345-1517 Fax 06-6457-1358
Email info@bigissue.or.jp

[東京事務所]
〒162-0065 新宿区住吉町8-5シンカイビル201号室
Tel 03-6802-6073 Fax 03-6802-6074
- ☐ 役 員 理事長 佐野 章 二 (有限会社ビッグイシュー日本代表)
理 事 井上 英 之 (慶應義塾大学専任講師)
枝元 なほみ (料理研究家)
水越 洋 子 (『ビッグイシュー日本版』編集長)
米本 昌 平 (東京大学特任教授)
監 事 木原 万樹子 (弁護士)
相談役 雨宮 処 凜 (作家)
松繁 逸 夫 (釜ヶ崎資料センター主宰)

ビッグイシュー基金では、活動を継続的に支援して下さるビッグイシュー基金応援会員を募集しています。

市民応援会員



あか抜け応援 (学生) 会員 年会費: 2,500円
[特典] 会員バッジを贈呈・雑誌『ビッグイシュー日本版』最新号1冊の贈呈・年次報告書の送付 (年1回)・メールマガジンの送付 (不定期)



ぐっすり応援会員 年会費: 5,000円
[特典] 会員バッジを贈呈・雑誌『ビッグイシュー日本版』最新号1冊の贈呈・年次報告書の送付 (年1回)・メールマガジンの送付 (不定期)



にっこり応援会員 年会費: 15,000円
[特典] あか抜け応援会員・ぐっすり応援会員の特典に加えて、雑誌最新号にお名前を掲載・雑誌『ビッグイシュー日本版』1冊1年分の送付



ひとり立ち応援会員 年会費: 50,000円
[特典] にっこり応援会員の特典に加えて、雑誌に1年間お名前を掲載・ビッグイシューパーティにペアでご招待 (年1回)



巣立ち応援会員 年会費: 100,000円
[特典] ひとり立ち応援会員の特典に加えて、ビッグイシューバックナンバー合本 (非売品) の贈呈

「にっこり会員」・「ひとり立ち会員」・「巣立ち会員」につきましては、ご家族やご友人への記念日やお誕生日のプレゼントとしてお申込みいただける、「プレゼント会員制度」を設けております。プレゼント会員制度をご利用いただいた場合、会費はお申込み者ご本人にご負担いただき、その会員の特典がご家族やご友人にプレゼントされます。プレゼントされる方には、その旨カードを添えてお伝えします。プレゼント制度のご利用を希望される方は、お電話06-6345-1517またはメールinfo@bigissue.or.jpにてご連絡ください。

企業・団体「社会再生」サポーター

キャリア再形成・サポーター会員 年会費: 250,000円

[特典] 雑誌に1年間貴社名を掲載・雑誌『ビッグイシュー日本版』1冊1年分の送付・ビッグイシューバックナンバー合本 (非売品) の贈呈・年次報告書の送付 (年1回)・ビッグイシューパーティにペアでご招待 (年1回)・ビッグイシュー定例サロンの見学

社会復帰・サポーター会員 年会費: 500,000円

[特典] キャリア再形成・サポーター会員の特典に加えて、貴社の社員研修会への販売者やスタッフの講師派遣 (年1回)・社員研修の一貫として、販売者指導の1日街角販売体験 (道端留学) や1日野宿サバイバル体験へご優待・ビッグイシュー基金のホームページに貴社名を掲載

社会再生・サポーター会員 年会費: 1,000,000円

[特典] 社会復帰・サポーター会員の特典に加えて、販売者参加のイベント (ダンス公演・コンサート・サッカー) のうちご希望の1つに、協賛企業として貴社名を掲載

《お申込み》

ホームページよりオンラインでご登録いただけます。 (<http://www.bigissue.or.jp>→ 応援するには? → 会員になる → 市民応援会員登録フォーム) または、郵送でお申込み用紙をお送りすることも出来ますので、送付先のご住所とお電話番号をお知らせください。お申込用紙は、〒530-0003大阪市北区堂島2丁目3-2堂北ビル4FまたはFAX 06-6457-1358までお送りください。

お申込み後は、恐れ入りますが会費のご入金をお願いいたします。ご入金を確認されました時点で、郵送にて特典一式を送らせていただきます。なお、ご入金の際の名義は、お申込みの際の名義と同じものをご入力いただきますようお願い申し上げます。

《郵便振替》

口座番号: 00960-6-141876 口座名義: NPO法人ビッグイシュー基金

《銀行振込》

銀行名: 三菱東京UFJ銀行 堂島支店 普通預金
口座番号: 5370607 口座名義: NPO法人ビッグイシュー基金